

# 西光寺だより

第九十五号 平成三〇年七月一日発行

## 大阪北部地震で被災された方々、

### 心よりお見舞い申し上げます。

六月十八日(月)午前七時五十八分頃、大阪府北部を震源とする地震があり、大阪市・高槻市など五市で震度六弱を観測しました。

発生直後自宅の天井にヒビがはしり、鐘楼の鐘が大きく揺れ、今でも思い出すたびに恐怖を感じることあります。この西河原周辺を見ますとかなりの屋根で瓦が傾き落下していました。お寺でも本堂・鐘楼はましでしたが、山門・太鼓楼・境内北西の塀の瓦などが落ち、お墓・灯籠が崩れました。

外に出て目にとびこんできた境内の変わり様に驚くばかりでありました。皆様のご自宅も大きな被害だったと思います。普段からこの辺りは、自然災害の少ないところですね。と台風が来るたび、地震の報道を見るたび、人ごとのように思っておりましたが、この度の自然災害の恐ろしさに改めて人とかかわり、心の叫びを直に感じ、とにかく怪我のなかったことにほっとするとところでございますが、亡くなられた方々のことを思いますと、心が痛むばかりであります。

犠牲者のいのちを通さないと改革されない現実のむなしさも思い知らされることでもあります。

いっどうなるかわからない無常の中で生きる私たち。無常という言葉は二つの意味があります。一つには、全てのもは常に変化し、いずれ壊れていくということ。もう一つは、壊れるものであるからこそ、いのちある一日一日を本当に大切に生きてゆかねばならないということの尊さに目覚めていく

ということでもあります。

お釈迦さまは、「人の世にいのちを受くることは難く、やがて死すべきものの、今、いのちあるはあり難し」といわれました。

仏教でいう無常は、滅びゆくということを説くのではなく、限りある人生をどのように生きていくか、今のいのちに寄り添ってくださるみ教えなのであります。

親鸞聖人の書かれたお手紙『ご消息』の中に「生死無常のことわり、くはしく如来の説きおかせおはしまして候ふうへは、おどろきおぼしめすべからず候ふ。」註釈版七七一とされるされました。私にとっては臨終の善し悪しではなく、けつして壊れることのない、阿弥陀如来の教えをよりどころとして生きてゆくことを伝えられました。

無常の反対は常住。意味は、永遠不変なこと。変化しないで常に存在すること。決して変わることはない・壊れることのない阿弥陀如来の思いは常に私たちに向けられていることを改めて感謝することでもあります。

### ◆先月の報告◆

六月三〇日(土)午後六時より西光寺本堂にて急遽役員会を行いました。この度の地震により周辺の方々の状況を聞かせていただき、そして西光寺の建物による被害と今後について話し合いを行いました。

西光寺住職といたしましても、早急の対応に感謝の思いであると同時に、今まで皆様を守っていただいていた西光寺がこのような災害により被災したこと、心を痛めている所でございます。

皆様の意見を聞かせていただき、今回、西光寺におきまして目に見える場所、太鼓楼の屋根、境内北西の塀、墓地、灯籠をとりあえず今後の余震のことも考慮し、順次直していくことに決定致しました。予算は西光寺講の中から算出予定であります。

今後といたしまして、総代様と連携していきながら対処していくことに皆様から一任されましたので、西光寺だよりなどを通してご報告できたらと思っています。

なお、西光寺本堂内陣の方も落下物が多数あり元の状態になるまでにある程度の時間がかかると思われますので、毎年八月十五日の盂蘭盆会法要は中止になる可能性が出てきましたのでそのことにつきましても西光寺だよりにてご報告させて頂きたいと思えます。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七一二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>